

一般質問

3月定例会



内藤 真一 議員

Q 移動販売支援 継続を

生活支援策の一つとして移動販売が始まり、町が燃料費相当を補助している。この補助は令和2年度までで、業者はその先の運営を心配している。買い物弱者支援として継続できるように検討を求めます。

A 業者と検討

町長 山崎 英樹

移動販売では、食料品などの販売に併せ、見守り活動等もお願いしている。

商店の減少と高齢化が進む本町では必要なサービスと認識しており、支援策を検討したい。



高齢者の買物を支援するローソン号

Q 大万木山等の 環境整備検討を

昨年、初めて大万木山に登った。景色のすばらしさに比べ、設置してある休憩小屋とトイレが粗末であり大変残念だった。苦情や要望は無いのか。環境整備、維持のため入山料導入を検討してはどうか。

A 入山料は調査研究

町長 山崎 英樹

大万木山では、県が休憩所やトイレを整備し管理しているが、劣化している。登山道は、毎年最寄りの自治会組織等に草刈りをお願いし、管理してもらっている。

環境整備は必要と考えており、入山料導入について調査研究する。



大万木山のトイレ

Q 教育長の姿勢を 問う

丸山知事は、小中学校の少人数学級編成を見直し、放課後児童クラブの利用時間延長など、子育て支援を拡充したいとの方針を示し、市町村の理解を求めた。町長は昨年12月24日の町村会で、知事の子育て支援策に理解を示した。

ところが「子どもと教育を大切に」という町民のつどいで、矢飼教育長のメッセージが紹介され「少人数学級編成の継続を強く要望する」とあった。教育長は、町長の意見を踏まえて対応する必要があると思うので、誠に遺憾である。

町長の意見と教育長の考えを問う。

A 深く反省

教育長 矢飼 斉

会合へのメッセージには、一教育者として小学校1年生だけは少人数学級編成が必要だという考えから発した。

思慮が足りず、軽率な行動であったと深く反省している。任命していただいた町長ならびに、同意いただいた議員の皆さまの信頼を損ねたことに、お詫び申し上げます。

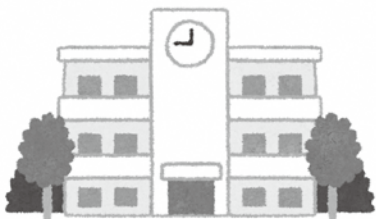
今後は、飯南町の教育を第一に努力する。

A 今後に期待

町長 山崎 英樹

今回の知事の考えは、本町の学校運営に影響がなく、子育て支援が強化されることは歓迎すべきこととして、支持することを確認していた。

教育長には、答弁のとおり、今回の事を踏まえ、行動していただけることと思っている。



一般質問

3月定例会



高橋 英次 議員

Q 地震体験車の 活用を

島根県では、マグニチュード9クラスの地震を疑似体験できる地震体験車を所有しており、県民の防災意識を高めるために活用している。

我が町でも地震体験車を積極的に活用し、住民に体験してもらい、防災意識を高めていかか。避難訓練などで学んだ避難行動や、危険回避の動作が、実際にできるかの確認にもなる。



島根県所有の起震車(地震体験車)

A 12月に利用予定

町長 山崎 英樹

大切な提案で、体験をしてもらうことは重要だ。

地震体験車の使用は、県内各消防本部で月単位での輪番制となっている。雲南消防本部に配置されるのは、直近で12月だ。季節も冬で年末だが、12月を目標にする。

来年は防災訓練もあり、活用して防災意識を高めたい。

Q ドローンで 災害情報入手を

災害が起きれば正確な情報入手が必要だが、道路の寸断や川の氾濫、橋の崩落、火災の延焼など現場での詳細な調査ができない場合がある。

小型無人機ドローンを活用すれば、正確な被害状況の確認、安全な道の確認や迅速な災害への対応ができる。医薬品や緊急物資の輸送においても有効な手段である。

本町でも、導入に向け取り組むべきだ。

A 調査・研究する

町長 山崎 英樹

災害調査には有効だ。物資の輸送は美郷町が進めており、職員も勉強に向いている。

導入には、様々な課題や多額の投資が必要だが、調査・研究を行う。

Q 備蓄品の現状は

備蓄品目とその数量は。消費期限・賞味期限など、定めがある品目の取り扱いと管理は。また、保管場所はどこか、地域別になっているのか。

備蓄に対する基本方針と、備蓄品目の選定基準などを確認したい。

A 人口1割分を 目標に

町長 山崎 英樹

主食1500食分をはじめ、飲料水、衛生用品を、本庁舎・各支所・頓原防災センターに分散備蓄している。

食料品は賞味期限3年から5年の物を備蓄し、期限が到来しそうな品目は、各種訓練やイベント等に提供し活用している。

基本方針は今後策定する。飯南町の人口の1割分を目標に、必要数を確保する。紙オムツ・粉ミルク、アレルギー対応品目を研究し、順次備蓄する。道の駅に液体ミルクなどを備蓄したいと思っている。